目線の向きが顔の印象に及ぼす効果

○野川祥世¹・渡邊伸行²

(¹金沢工業大学大学院工学研究科・²金沢工業大学情報フロンティア学部)

キーワード：顔，目線，印象

Effect of direction of eyes on facial impression.

Sachiyo NOGAWA¹, Nobuyuki WATANABE²

(¹ Graduate School of Engineering, Kanazawa Institute of Technology

² College of Informatics and Human Communication, Kanazawa Institute of Technology)

Key Words: face, direction of eyes, impression

目 的

私たちが普段目にする漫画やドラマでは，上目遣いや伏し目などの女性の目線によって，男性がときめいている描写が多く見られる。これは目線の角度によって，その女性に対する印象が変化していることを示している。

他者を見るととき，私たちの目は何よりも相手の目に注意を引かれている（山田，2011）。また対人コミュニケーションにおいて，顔の容貌は人間関係の形成や維持，人物の評価など，様々な場面において何らかの影響を持つことが明らかになってきた（例えば Bull & Rumsey, 1988 参照）。以上のことから，目元の印象は上述のような様々な対人場面において，重要な役割を担っていると考えられる。

本研究では，目線の向きによって，モデルの顔の印象が通常の状態と比べてどのように変化するかを検討することを目的とする。女性のモデルによる上目遣いと伏し目の顔画像を使用し，その印象評価を実施する。

方 法

実験参加者 金沢工業大学の学生 40 名（男性 21 名，女性 19 名，年齢 18～28 歳）に実験に参加してもらった。

刺激 女性 5 名をモデルとして，正面顔，上目遣い a（角度浅め），上目遣い b（角度深め），伏し目 a（角度浅め），伏し目 b（角度深め）の 5 種類の顔画像をそれぞれ撮影し，計 25 点を刺激とした。上目遣いと伏し目でそれぞれ目線の角度を 2 種類設定したのは，目線の深さが印象に影響を与えるか調べるためである。

手続き 作成した刺激をランダムに提示し，SD 法で評価を求めた。具体的には，固視点を 1 秒，正面顔を 1 秒提示した後，ターゲット（正面顔と同一人物の 5 種類の顔画像のいずれか）を提示した。使用した形容詞対は，予備実験の結果より抽出した 19 項目とし，7 件法で評価を求めた。

結 果

SD 法の評価値を用いて，最尤法により因子分析を行い，プロマックス回転を適用した。その結果，3 つの因子が抽出され，第 1 因子を「社交性」，第 2 因子を「おしとやかさ」，第 3 因子を「魅力」とそれぞれ命名した。Figure 1 に第 1 因子と第 2 因子を軸とした因子空間における目線の布置を示す。

Figure 1 より，実験参加者とモデルが目の合っている状態になる正面顔と上目遣いは「社交性」が高く，目の合っていない伏し目は「社交性」が低く判断されることがわかった。社交的に見られる目線のうち，「おしとやかさ」は「正面顔＞上目遣い a＞上目遣い b」の順に高いことがわかった。社交的でないと評価された伏し目は，目線の角度による印象の違いは見られなかった。また，「社交性」の軸上では正面顔・上目遣いと伏し目で布置が近接しているが，「おしとやかさ」の軸上では顔画像によって布置が分散していることが示された。

Figure 1 因子空間における目線の布置

なお，第 3 因子の「魅力」では，「社交性」が高くなるほど「魅力」が低くなる傾向が見られた。目線の向きと「おしとやかさ」と「魅力」の関係については，確認できなかった。

考 察

実験の結果，対面の相手と目を合わせた場合は社交性が高く，目をそらした場合は社交性が低く判断されることがわかった。また，第 3 因子に着目すると，社交性が高くなるほど魅力が低く評価される傾向が示された。

上目遣いについては，正面顔と比較して，おしとやかさが低くなり，特に上目遣い b においてその傾向が顕著であった。社交性が高く，おしとやかさと魅力が低い上目遣いは，明るく人づきあいが上手な印象を与えられられる。したがって，友人や仕事のパートナーとしては望ましくても，女性らしさを感じにくくなってしまっているのではないかと推測される。

一方，伏し目は社交性が低く，魅力が高いと評価される傾向が示された。このことは，伏し目が閉じた性格のイメージを与え，ミステリアスな印象となり，そのため魅力が高くなったのではないかと考えられる。

以上の結果をまとめると，相手に社交的な印象を与え，親密になりたい場合は上目遣いを，自分を魅力的に見せたい場合は伏し目をするのが効果的であると考えられる。

引用文献

- Bull, R., & Rumsey, N. (1988). *The social psychology of facial appearance*. New York, NY: Springer.
- 山田雅子 (2011). 目と顔の対人魅力——重験と二重験に関する意識の変遷—— 埼玉女子短期大学研究紀要, No.23, 241-250.